

様式 5

平成 29 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 29 年 6 月 6 日

学 長 殿

所属部局・職名 共生システム理工学類・教授

申 請 者 名 董 彦文

助成事業の区分 (該当するものに印)	研究協力に関する事業 (学会参加)
事業名	日本経営工学会 2017 年春季大会の参加
事業実施期間	平成 29 年 5 月 26 日 ~ 平成 29 年 5 月 27 日
成果の概要	<p>日本経営工学会 2017 年春季大会は龍谷大学深草キャンパスにて開催され、初日平日開催のため参加者がいつもより少なかったようであった。この大会に参加し、「一般職業適性検査 GATB 結果に基づいたセル生産作業者の適性評価に関する考察」を題とする研究発表を行った。</p> <p>セル生産の効率と作業者の適性との関連を調べるために、セル生産に関する実験室実験を設計し、作業時間測定を行ったうえ、厚生労働省編一般職業適性検査 (GATB) を用いて作業者の適性を評価した。50 人の作業者を対象として実験と適性検査を行ったところ、紙筆検査で評価された 7 つの適性の中で、空間判断力 (S) だけが作業効率に有意な相関をもつことが明らかになった。本研究では、先行研究を改良・発展することを目的として、検査・測定データにおける外れ値の影響を調べたうえ、得られた結果に基づき作業者適性の評価に関する課題を明確にする。</p> <p>時間測定結果と GATB 検査得点から外れ値を検出したうえ、作業者適性と作業時間との関連に対する外れ値の影響を検証した。外れ値が解析結果に決定的な影響を与えることが明らかになったので、GATB 検査結果に基づき、作業者の適性を評価する際、外れ値の検出とその処理方法を考慮しなければいけない。</p>